厚生労働科学研究費補助金

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

令和５年度　総括・分担研究報告書

研究代表者　金城　文

令和６（２０２４）年　５月

Ｉ．総括研究報告

20 歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究　----　001

金城文

II．分担研究報告

１．　学校が調査に参加しやすい環境に関する研究　------------------　008

金城文、他

（資料１）短縮調査群　生徒調査票サンプル

（資料 2）詳細調査群　生徒調査票サンプル

III．研究成果の刊行に関する一覧表　-----------------------------------　028

Ⅳ．倫理審査等報告書の写し　--　029

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

Ⅰ．総括研究報告書

20 歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

研究代表者　金城　文　鳥取大学医学部准教授

研究要旨

20 歳未満での喫煙や飲酒の開始は、青少年期から将来の健康や社会生活に影響を及ぼす。本研究は 20 歳未満の喫煙及び飲酒の状況や喫煙及び飲酒行動開始と関係する要因、受動喫煙の状況を把握し、関連する環境要因等の改善に資する施策やその費用対効果等を検討することを目的に、以下の３つの柱で研究を実施した：柱 1．中高生の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態把握、柱 2．18～20 歳の喫煙及び飲酒行動の実態把握、柱 3．20 歳未満の喫煙及び飲酒を防止する有効な施策の検証。

柱 1 は、学校の中高生全国調査への協力意向や、学校が調査に参加しやすい要件を明らかにすることを目的に、全国から中学校 2000 校、高等学校 1000 校を無作為抽出し、令和 5 年 11 月から令和 6 年 1 月に学校調査を実施した。対象校は、回答時間が短い調査票サンプルを提示する群（以下、短縮調査群、中学校 1000 校、高等学校 500 校）、従来通りの詳細な調査票サンプルを提示する群（以下、詳細調査群、中学校 1000 校、高等学校 500 校）の 2 群に無作為に割り付けて調査を実施した。中学校 450 校（短縮調査群 220 校、詳細調査群 230 校）、高等学校 207 校（短縮調査群 87 校、詳細調査群 120 校）から回答を得た。短縮調査群と詳細調査群において中高生全国調査へ協力する意向に差は認めなかったが、調査に協力できる要件の１つとして、特に詳細調査群で、「短時間で回答できること」が挙げられており、短縮版での中高生全国調査の実施はより多くの学校の協力が得られる可能性が示唆された。また、98%の学校がウェブで調査を実施できると回答していた。本結果を受けて、健康日本 21（第三次）のベースライン値を提供するための令和 6 年度中高生全国調査は、ウェブ回答方式、短縮版で実施する方針とした。一方、短縮版の調査では、中高生の喫煙及び飲酒行動開始と関係する要因や、受動喫煙の状況等を把握することができず、施策に反映することができないため、詳細な調査項目を含む中高生全国調査も望まれる。そこで、令和 7 年度に詳細な調査項目を含む中高生全国調査（詳細版）を実施することとした。

柱 2 は、本年度は、既存資料を用いて 18～20 歳の喫煙率や飲酒率の実態を把握する方法について検討を行った。その結果、[1]娯楽と生活習慣に関する調査（2019 年 4 月実施、18～24 歳対象、訪問面接調査）、[2]鳥取・島根の事業者健診データ（2023 年 12 月まで、事業者健診対象者）の２つの既存資料を用いる方針で、準備を進めた。令和 6 年度は、データの整理、分析を行い、18～20 歳の喫煙率や飲酒率を算出する。令和 7 年度は、柱 1 の中高生全国調査（短縮版）の結果と合わせて、20 歳未満の年齢別の喫煙率と飲酒率を評価する。

柱3は、20歳未満の喫煙及び飲酒を防止することを目的とした介入研究について、これまで行われた系統的レビューの調査を行った。喫煙については、近年系統的レビューが行われており、新たに系統的レビューを行う意義が低いことが示唆された。飲酒については、家庭での予防プログラムは2019年に系統的レビューが行われているが、学校での予防プログラムは近年の系統的レビューがないため、学校での予防プログラムについて、今後系統的レビューを行うことは意義があることが確認された。令和6年度は、日本で実装可能な施策の観点から、社会レベルの施策も含め、検証する優先度の高い施策の検討と文献調査を行い、日本で実装可能な施策の効果量や施策を展開する上での留意点を示すための資料を収集する。

研究分担者
尾崎米厚（鳥取大学・医学部・教授）
兼板佳孝（日本大学・医学部・教授）
神田秀幸（岡山大学・学術研究院医歯薬学域・教授）
樋口進（久里浜医療センター・名誉院長）
井谷修（国際医療福祉大学・医学部・教授）
地家真紀（昭和女子大学・食健康科学部・准教授）
大塚雄一郎（日本大学・医学部・准教授）
吉本尚（筑波大学・医学医療系・准教授）
真栄里仁（琉球病院・副院長）
美濃部るり子（久里浜医療センター・医師）
桑原祐樹（鳥取大学・医学部・助教）
春日秀朗（福島県立医科大学・医学部・助教）
伊藤央奈（郡山女子大学・家政学部・准教授）
今本彩（鳥取大学・医学部・助教）

A．研究目的

20歳未満での喫煙や飲酒の開始は、青少年期から将来の健康や社会生活に影響を及ぼす。健康日本21（第三次）、たばこの規制に関する世界保健機関枠組み条約、アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略において、青少年の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態や取り巻く社会環境の定期的なモニタリングが求められている。1996年以降実施してきた学校ベースの中高生の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査（以下、中高生全国調査）によると、わが国の中高生の喫煙率や飲酒率は改善してきた（Osaki Y et al., 2008、2009）。一方、中高生の喫煙率や飲酒率は目標値0%を達成していない、高校卒業から20歳までに喫煙や飲酒を開始する要因がある、現在中高生で喫煙や飲酒行動がある者は不健康な生活習慣が集積しやすい集団である（Fujii M et al., 2021）、新型タバコ等新たな製品出現による中高生の喫煙や飲酒への影響が懸念される（Kuwabara Y, et al. 2020）といった課題がある。

本研究は20歳未満の喫煙及び飲酒の状況や喫煙及び飲酒行動開始と関係する要

因、受動喫煙の状況を把握し、関連する環境要因等の改善に資する施策やその費用対効果等を検討することを目的に、以下の3つの柱で研究を計画した。

柱1. 中高生の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態把握

新たな試みとして、以下の3段階で調査を実施する。

令和5年度　全国学校調査

令和6年度　中高生全国調査（短縮版）

令和7年度　中高生全国調査（詳細版）

令和6年度中高生全国調査（短縮版）は、回答時間を短縮し、学校の調査に参加する負担を軽減するため、調査項目を健康日本21（第三次）の指標を算出するための11項目に絞った調査である。しかし、短縮版の調査項目のみでは中高生の喫煙及び飲酒行動の開始に関連する社会環境や受動喫煙の実態といった対策を検討するために必要な結果が得られないため、令和7年度に詳細な調査項目を含めた中高生全国調査（詳細版）を計画した。

青少年の喫煙及び飲酒行動について周期的なモニタリングが求められている一方、時代の変化等により、中高生全国調査へ学校の協力が得られにくい現状がある。そこで、令和5年度全国学校調査は、学校の中高生全国調査への協力の意向、学校が調査に参加しやすい要件を明らかにする目的で実施した。令和5年度全国学校調査の結果を元に、令和6年度中高生全国調査（短縮版）、令和6年度中高生全国調査（詳細版）の実施方法を検討する。

柱2. 18～20歳の喫煙及び飲酒行動の実態把握

18～20歳を対象に含む既存の調査を用いて18～20歳の喫煙率と飲酒率を推計し、中高生全国調査（短縮版）の結果と合わせて、令和7年度に20歳未満の年齢別の喫煙率と飲酒率を評価する。令和5年度は、18～20歳を対象に含む既存調査を用いた、18～20歳の喫煙及び飲酒の実態の分析方法の検討を進めた。

柱3. 20歳未満の喫煙及び飲酒を防止する有効な施策の検証

20歳未満の喫煙及び飲酒の防止に有効な施策に関する文献のレビューを行い、文献レビューから得た20歳未満の喫煙及び飲酒を防止する有効な施策のうち、日本で実装可能な施策、文献の報告値から実装した場合の効果量、施策を展開する上での留意点を令和7年度に明らかにする。令和5年度は、文献レビューの準備と予備調査を行った。

B. 研究方法

柱1. 中高生の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態把握

本研究は、学校を対象としたアンケート調査である。2023年版全国学校総覧に掲載されている中学校、高等学校から、中等教育学校と定時制・通信・専科・別科の高等学校以外の中学校2000校、高等学校1000校を無作為に抽出し、本研究の対象校とした。

全国から無作為抽出した中学校と高等学校を、それぞれランダムに2群に割り付け、一方回答時間が短い調査票サンプルを

提示する群（以下、短縮調査群、中学校1000校、高等学校500校）、もう一方を従来通りの詳細な内容の調査票サンプルを提示する群（以下、詳細調査群、中学校1000校、高等学校500校）とした。短縮調査群は、調査項目が10項目程の生徒調査票サンプルを、詳細調査群には調査項目が70項目程の生徒調査票サンプルを紙とウェブ回答画面上で閲覧してもらい、アンケート用紙に回答してもらった。本調査は、令和5年11月から令和6年1月まで実施した。

（倫理面への配慮）

本研究は、学校を対象として、新たに情報を取得するアンケート調査研究であり、取得する情報に要配慮個人情報は含まれていない。調査協力依頼文に、本研究についての説明を記載し、学校調査票の返送をもって、調査への同意とみなした。研究計画は、鳥取大学医学部倫理審査委員会で審査され、承認された。

<u>柱2．18～20歳の喫煙及び飲酒行動の実態把握</u>

既存資料を用いて、18～20歳の喫煙率や飲酒率の実態を把握する方法について検討を行った。その結果、以下の２つの既存資料を用いる方針で準備を進めた。

[1]娯楽と生活習慣に関する調査（2019年4月実施、18～24歳対象、訪問面接調査）

[2]鳥取・島根の事業者健診データ（2023年12月まで、事業者健診対象者）

結果は、令和6年度報告書にて報告する。

（倫理面への配慮）

[1]は無記名調査であり、久里浜医療センター倫理審査委員会で審査され、承認受けて実施された。[2]は要配慮個人情報を含まないデータの提供を受ける研究であり、研究計画は、鳥取大学医学部倫理審査委員会で審査され、承認された。

<u>柱3．20歳未満の喫煙及び飲酒を防止する有効な施策の検証</u>

令和5年度は、20歳未満の喫煙及び飲酒を防止することを目的とした介入研究について、これまで行われた系統的レビューの調査を行った。

（倫理面への配慮）

公開データベースを使用した研究であり、該当しない。

C．研究結果

<u>柱1．中高生の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態把握</u>

中学校450校（短縮調査群220校、詳細調査群230校）、高等学校207校（短縮調査群87校、詳細調査群120校）から回答を得た。学校調査への回答率は、中学校短縮調査群22%、中学校詳細調査群23%、高等学校短縮調査群17%、高等学校詳細調査群24%であった。学校調査の回答率は、中学校は短縮調査群と詳細調査群の群間差を認めず（p value=0.592）、高等学校は詳細調査群の回答率が高い結果であった（p value=0.010）。

(1)中高生全国調査への協力意向

今後の中高生調査へ協力意向があると回答した学校は、中学校137校（短縮調査群76校、詳細調査群61校）、高等学校70校（短縮調査群32校、詳細調査群38校）であった。中学校、高等学校とも、生徒調査

へ協力意向がある割合は、短縮調査群と詳細調査群で差は認めなかった（中学校 p value=0.184、高等学校 p value=0.457）。

(2)ウェブで回答できる環境の有無

ウェブで回答できる環境の有無については、今後の中高生全国調査へ協力意向がある学校のうち、「ウェブで回答できる」と回答した学校は中学校 134 校、高等学校 68 校、「紙と鉛筆での回答が良い」と回答した学校は中学校 3 校、高校 1 校であった。

(3)調査へ協力できない/できる理由

今後の中高生全国調査に協力できないと回答した学校が協力できない理由は、「多忙のため」「調査物が多い」「質問の内容が不適切」等であった。

中高生全国調査に協力できると回答した学校の意見としては、「アンケート協力に問題はない」「アンケートが活用されるのであれば協力したい。結果を教育に活用したい。」等であった。

中高生全国調査に協力できる条件については、「ウェブ等インターネットを利用した回答」「質問内容の変更」「短時間で回答できること」等であった。

(4)調査へ協力できる/できない学校の比較

中高生調査へ協力意向がある学校とない学校の特徴を比較したところ、中学校、高等学校ともに、生徒数が少ない学校の方が、協力できると回答していた。協力できると回答した学校において、高等学校では「ICT 教育の取り組みをしている」の割合が高かったが、その以外の学校要因については差を認めなかった。

(5)健康リスク行動に対する健康教育

健康リスク行動の内容別、前年度の健康教育の実施割合は、中学校では薬物 97.1%、ネット・ゲーム 89.4%、性感染症 89.1%、タバコ 86.1%、お酒 82.6%、高等学校では薬物 92.7%、ネット・ゲーム 82.5%、性感染症 80.6%、タバコ 61.3%、お酒 61.3%であった。

<u>柱 3. 20 歳未満の喫煙及び飲酒を防止する有効な施策の検証</u>

青少年の喫煙を防止することを目的とした介入研究に関するシステマティックレビューは 8 編報告されていた。介入のカテゴリーは、家庭での予防プログラム、学校での予防プログラム、個人への介入プログラム、禁煙プログラム等があり、近年システマティックレビューが行われていた。

青少年の飲酒を防止することを目的とした介入研究に関するシステマティックレビューは 5 編報告されていた。介入のカテゴリーは、家庭での予防プログラム、学校での予防プログラム、複数要素への介入プログラムの３つに分けられた。

D．考察

<u>柱 1. 中高生の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態把握</u>

中学校や高等学校の中高生全国調査への協力意向、学校が調査に参加しやすい要件、調査項目数が少ない調査の学校協力率向上効果、協力意向がある学校の特徴、を明らかにするために、全国から無作為抽出した中学校と高等学校を対象に、短縮調査群と、詳細調査群の 2 群にランダムに割り

付け、学校調査を実施した。その結果、短縮調査群と詳細調査群で中高生全国調査へ協力する意向に差は認めなかったが、調査を実施できる条件として、特に詳細調査群で、「短時間で回答できること」が挙げられており、短時間で回答できる短縮版での中高生全国調査の実施はより多くの学校に協力してもらうために必要であると考えられた。また、ほとんどの学校が中高生全国調査の回答をウェブで行うことができると回答し、生徒調査に協力する条件としてもウェブでの回答が多数挙げられた。本年度学校調査の結果を受けて、健康日本21（第三次）のベースライン値を提供するための令和６年度中高生全国調査は、ウェブ回答方式での短縮版で実施する方針とする。一方、短縮版の調査では、中高生の喫煙及び飲酒行動開始と関係する要因や、受動喫煙の状況等を把握することができず、施策に反映することができないため、詳細版での中高生全国調査も望まれる。

柱３．20歳未満の喫煙及び飲酒を防止する有効な施策の検証

喫煙については、近年システマティックレビューが行われており、新たにシステマティックレビューを行う意義は低いことが示唆された。飲酒については、家庭での予防プログラムは2019年にシステマティックレビューが行われているが、学校での予防プログラムは近年のレビューがないため、学校での予防プログラムについて、今後システマティックレビューを行う意義があると確認された。引きつづき、日本で実装可能な施策の観点から、社会レベルの施策も含め、検証する優先度が高い施策の検討と文献調査を行い、日本で実装可能な施策の効果量や施策を展開する上での留意点を示す資料を収集する。

Ｅ．結論

令和５年度は、柱１：学校調査、柱２：既存調査を用いた18‐20歳の喫煙及び飲酒の実態の分析方法の検討、柱３：20歳未満の喫煙や飲酒を予防する施策に関する文献レビューの予備調査を行った。柱１：学校調査の結果を元に、健康日本21（第三次）の評価指標を提供するため、令和６年度は調査項目を絞った短縮版での中高生全国調査をウェブ回答方式中心に実施することとする。一方、中高生の喫煙及び飲酒行動開始と関係する要因や、受動喫煙の状況等を把握し、施策へ反映するために、詳細版での中高生全国調査が必要である。そこで、令和７年度に、中高生全国調査詳細版を実施する方針とする。柱２や柱３で得られた結果は、令和７年度中高生全国調査詳細版の調査項目に反映させ、20歳未満での喫煙や飲酒行動開始に関連する環境要因等の改善に資する施策やその費用対効果等の検討に用いる。

Ｆ．健康危険情報

なし

Ｇ．研究発表

１．論文発表

1) Yoshida K, Kanda H, Hisamatsu T, Kuwabara Y, Kinjo A, Yoshimoto H, Ito T, Kasuga H, Minobe R, Maesato H, Jike M, Matsumoto Y, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Higuchi S, Osaki Y.

Association and dose-response relationship between exposure to alcohol advertising media and current drinking: a nationwide cross-sectional study of Japanese adolescents. Environ Health Prev Med. 2023;28:58. doi: 10.1265/ehpm.23-00127.
2) Otsuka Y, Kinjo A, Kaneita Y, Itani O, Kuwabara Y, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Kanda H, Yoshimoto H, Jike M, Kasuga H, Ito T, Osaki Y. Comparison of the responses of cross-sectional web- and paper-based surveys on lifestyle behaviors of Japanese adolescents. Prev Med Rep. 2023;36:102462.
3) Kuwabara Y, Kinjo A, Kim H, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Kanda H, Kasuga H, Ito T, Osaki Y. Secondhand Smoke Exposure and Smoking Prevalence Among Adolescents. JAMA Netw Open. 2023;6(10):e2338166. doi:10.1001/jamanetworkopen.2023.38166.

２．学会発表
1) 尾﨑米厚. 飲酒のリスクと介入（飲酒の健康リスクと介入方法）. 日本循環器予防学会誌 2023;58:140.
2) 神田秀幸. 教育講演　産業保健の視点からみたアディクションの課題と予防. 第82回日本産業衛生学会東北地方会・産業医協議会 2023.7.22 コラッセ福島(福島市).
3) 神田秀幸. 柳田知司賞受賞講演　アルコール・アディクション医学における公衆衛生学的アプローチ. 日本アルコール・薬物医学雑誌 2023;58:104.
4) 桑原祐樹、金弘子、金城文、尾﨑米厚. 思春期から成人期にかけての喫煙・新型タバコ使用の現状と産業保健分野への示唆. 日本アルコール・薬物医学雑誌 2023;58:148.
5) 金城文、尾﨑米厚. アルコール健康障害対策ー公衆衛生学的立場からー. 日本アルコール・薬物医学雑誌 2023;58:215.

H．知的財産権の出願・登録状況
１．特許取得
　該当なし
２．実用新案登録
　該当なし
３．その他
　特記すべきことなし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

Ⅱ．分担研究報告書

学校が調査に参加しやすい環境に関する研究

研究代表者	金城文	鳥取大学医学部　准教授
研究分担者	尾崎米厚	鳥取大学医学部　教授
	兼板佳孝	日本大学医学部　教授
	神田秀幸	岡山大学学術研究院医歯薬学域　教授
	樋口進	久里浜医療センター　名誉院長
	井谷修	国際医療福祉大学医学部　教授
	地家真紀	昭和女子大学食健康科学部　准教授
	大塚雄一郎	日本大学医学部　准教授
	吉本尚	筑波大学医学医療系　准教授
	真栄里仁	琉球病院　副院長
	美濃部るり子	久里浜医療センター　医師
	桑原祐樹	鳥取大学医学部　助教
	春日秀朗	福島県立医科大学医学部　助教
	伊藤央奈	郡山女子大学家政学部　准教授
	今本彩	鳥取大学医学部　助教
研究協力者	吉田啓太	岡山大学学術研究院医歯薬学域　大学院生
	金弘子	鳥取大学医学部　特任助教

研究要旨

研究目的：青少年の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態や取り巻く社会環境の定期的なモニタリングが求められる一方、社会の変化により、中高生全国調査へ学校の協力が得られにくくなっている。本研究は、学校の中高生全国調査への協力意向や、学校が調査に参加しやすい要件を明らかにすることを目的に実施した。

方法：本研究は学校に対するアンケート調査で、令和 5 年 11 月から令和 6 年 1 月に実施した。全国から中学校 2000 校、高等学校 1000 校を無作為抽出し、本研究の対象校とした。無作為抽出した対象校を無作為に、回答時間が短い調査票サンプルを提示する群（以下、短縮調査群、中学校 1000 校、高等学校 500 校）、従来通りの詳細な調査票サンプルを提示する群（以下、詳細調査群、中学校 1000 校、高等学校 500 校）の 2 群に割り付けた。短縮調査群、詳細調査群に、それぞれの生徒調査票サンプルを紙とウェブ回答画面上で閲覧してもらい、今後の中高生全国調査への協力の意向、ウェブ回答の実施可否、学校における喫煙、飲酒、その他の健康リスク行動に関する質問に学校の代表者に回答してもらった。協力の意向がある学校の割合を短縮調査群と詳細調査群で比較した。学校が調査に参加しやすい要件については、自由記載の内容を検討した。

結果：中学校 450 校（短縮調査群 220 校、詳細調査群 230 校）、高等学校 207 校（短縮調査群 87 校、詳細調査群 120 校）から回答を得た。学校調査の回答率は、中学校は短縮調査群（22%）と詳細調査群（23%）の群間差を認めず（p value=0.592）、高等学校は詳細調査群（24%）の回答率が短縮調査群（17%）より高かった（p value=0.010）。

中高生全国調査へ協力意向があると回答した学校は、中学校 137 校（短縮調査群 76 校、詳細調査群 61 校）、高等学校 70 校（短縮調査群 32 校、詳細調査群 38 校）であった。中学校、高等学校とも、生徒調査へ協力意向がある割合は、短縮調査群と詳細調査群で差は認めなかった（中学校 p value=0.184、高等学校 p value=0.457）。中高生全国調査へ協力意向がある学校のうち、ほとんどの学校が「ウェブで回答できる」と回答した。中高生全国調査に協力できない理由は、「多忙のため」「調査物が多い」「質問の内容が不適切」等であった。協力できる理由は、「アンケート協力に問題はない」「アンケートが活用されるのであれば協力したい、結果を教育に活用したい」等であった。生徒調査に協力できる条件については、「ウェブ等インターネットを利用した回答」「質問内容の変更」「短時間で回答できること」等であった。
考察：短縮調査群と詳細調査群において中高生全国調査へ協力する意向に差は認めなかったが、調査に協力できる要件として、特に詳細調査群で、「短時間で回答できること」が挙げられており、短時間で回答できる短縮版での中高生全国調査の実施はより多くの学校に協力してもらうために必要であると考えられた。また、ほとんどの学校がウェブで調査を実施できると回答していた。本学校調査の結果を受けて、健康日本 21（第三次）のベースライン値を提供するための令和 6 年度中高生全国調査は、ウェブ回答方式、短縮版で実施する方針とした。一方、短縮版の調査では、中高生の喫煙及び飲酒行動開始と関係する要因や、受動喫煙の状況等を把握することができず、施策に反映することができないため、詳細版での中高生全国調査も望まれる。

A．研究目的

本研究班の柱 1. 中高生の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態把握では、令和 6 年度に中高生の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査（以下、中高生全国調査）の（短縮版）を、令和 7 年度に中高生全国調査の（詳細版）を実施予定である。令和 6 年度短縮版は中高生の喫煙率と飲酒率を把握することを目的に実施する。令和 7 年度詳細版は中高生での喫煙及び飲酒行動開始と関連する要因、受動喫煙の状況を把握し、関連する環境要因等の改善に資する施策やその費用対効果等を検討することを目的に実施する。

健康日本 21（第三次）、たばこの規制に関する世界保健機関枠組み条約、アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略において、青少年の喫煙及び飲酒行動、受動喫煙の実態や取り巻く社会環境の定期的なモニタリングが求められている。一方で、時代の変化や新型コロナウイルス感染症流行等の影響で、中高生全国調査へ学校の協力が得られにくくなっている現状がある[1]。そのため、過去の調査との比較性を維持しつつも、新しい時代に即した調査方法の開発が求められている。そこで、令和 5 年度は、中学校や高等学校の中高生全国調査への協力意向や、学校が調査に参加しやすい要件を明らかにすることを目的に、学校調査を実施した。

学校調査を行うにあたり、学校が調査に参加しやすい要件の一つとして、調査項目数が少ないことが考えらえた。一方、調査項目数が少なくても学校協力率は変わらないのではないか、調査項目が限定されてしまうことで中高生の喫煙及び飲酒行動に関連する要因を明らかにすることができない、といった懸念もあった。そこで、令和5年度学校調査では、調査項目数が少ない調査と、調査項目数が従来通りの調査で学校参加意向に差を認めるか、について検証することとした。さらに、中高生全国調査へ協力できると回答した学校と協力できないと回答した学校の特徴を比較することも目的とした。

令和5年度学校調査で得られた結果を参考に、令和6年度以降の中高生全国調査の実施方法や調査票配布数を決定する。

B．研究方法

本研究は、学校を対象としたアンケート調査である。2023年版全国学校総覧に掲載されている中学校、高等学校から、中等教育学校と定時制・通信・専科・別科の高等学校以外の中学校2000校、高等学校1000校を無作為に抽出し、本研究の対象校とした。

全国から無作為抽出した中学校と高等学校を、それぞれランダムに2群に割り付け、一方を回答時間が短い調査票サンプルを提示する群（以下、短縮調査群、中学校1000校、高等学校500校）、もう一方を従来通りの詳細な内容の調査票サンプルを提示する群（以下、詳細調査群、中学校1000校、高等学校500校）とした。

抽出校の校長宛に調査協力依頼文を送付し、協力の得られた学校の代表者に学校名を記名した学校調査票へ回答してもらった後に、研究責任者へ回答用紙を返送してもらった。短縮調査群は、調査項目が10項目程の生徒調査票サンプル（資料1）を、詳細調査群には調査項目が70項目程の生徒調査票サンプル（資料2）を紙とウェブ回答画面上で閲覧してもらい、アンケート用紙に回答してもらった。本調査は、令和5年11月から令和6年1月まで実施した。

調査項目は、以下が含まれた。

1）今後の中高生の生活習慣に関する調査への協力について：今後の調査への協力の意向、回答方式（ウェブ回答の実施可否）

2）学校に関する一般的事項：学校名、生徒数、中退者数、留年数、大学進学数

3）喫煙に関する事項：喫煙率の高低、学校内喫煙に対する処分の規則、処分者の有無、教員の喫煙率、校長の喫煙、昨年度の健康教育の実施状況と内容、タバコ会社から協力を得た健康教育実施の有無、敷地内禁煙開始時期、特定屋外喫煙場所の設置状況

4）飲酒に関する事項：飲酒率の高低、昨年度の健康教育の実施状況と内容、酒類販売会社から協力を得た健康教育実施の有無、アルコールパッチテスト実施の有無

5）その他の健康リスク行動に関する事項：薬物や性・性感染症、インターネット・ゲーム、その他に関する昨年度の健康教育の実施状況と内容、通信・ゲーム・ネ

ット関連会社から協力を得た健康教育実施の有無、ICT 教育への取り組み状況

協力の意向がある学校の割合を、短縮調査群と詳細調査群で比較した。この際、割合の分母は配布校数、分子は調査へ協力できると回答した学校数とした。短縮調査群と詳細調査群の協力意向がある学校割合の比較は、$\chi 2$ 検定を用いて評価した。また、協力意向がある学校とない学校の特徴の比較は、Mann-Whiteny の U 検定、$\chi 2$ 検定を用いて評価した。学校が調査に参加しやすい要件については、自由記載の内容を検討し、カテゴリー化した。

（倫理面への配慮）

本研究は、学校を対象として、新たに情報を取得するアンケート調査研究であり、取得する情報に要配慮個人情報は含まれていない。調査協力依頼文に、本研究についての説明を記載し、学校調査票の返送をもって、調査への同意とみなした。研究計画は、鳥取大学医学部倫理審査委員会で審査され、承認された[承認番号：23A078]。

C．研究結果（班会議資料を参照）

令和 5 年度学校調査の回答率

中学校 450 校（短縮調査群 220 校、詳細調査群 230 校）、高等学校 207 校（短縮調査群 87 校、詳細調査群 120 校）から、学校調査への回答を得た（表 1）。学校調査への回答率は、中学校短縮調査群 22%、中学校詳細調査群 23%、高等学校短縮調査群 17%、高等学校詳細調査群 24%で、短縮調査群と詳細調査群で学校調査の回答率を検定したところ、中学校は群間差を認めず（p value=0.592）、高等学校は詳細調査群の回答率が高い結果であった（p value=0.010）。

中高生全国調査への協力意向

今後の中高生全国調査へ協力意向があると回答した学校は、中学校 137 校（短縮調査群 76 校、詳細調査群 61 校）、高等学校 70 校（短縮調査群 32 校、詳細調査群 38 校）であった（表 2）。中学校、高等学校とも、生徒調査へ協力意向がある割合は、短縮調査群と詳細調査群で差は認めなかった（中学校 p value=0.184、高等学校 p value=0.457）。

ウェブで回答できる環境の有無

ウェブで回答できる環境の有無については、今後の中高生全国調査へ協力意向がある学校のうち、「ウェブで回答できる」と回答した学校は中学校 134 校、高等学校 68 校、「紙と鉛筆での回答が良い」と回答した学校は中学校 3 校、高校 1 校であった（表 3）。

調査へ協力できない/できる理由

今後の中高生全国調査に「協力できない」と回答した学校が協力できない理由は、「多忙のため」「調査物が多い」「質問の内容が不適切」等であった（図 1）。

中高生全国調査に協力できると回答した学校の意見としては、「アンケート協力に問題はない」「アンケートが活用されるのであれば協力したい。結果を教育に活用したい。」等であった（図 2）。

中高生全国調査に協力できる条件につい

ては、「ウェブ等インターネットを利用した回答」「質問内容の変更」「短時間で回答できること」等であった（図3）。

調査へ協力できる/できない学校の比較

中高生全国調査へ協力意向がある学校とない学校の特徴を比較したところ、中学校、高等学校ともに、生徒数が少ない学校の方が、協力できると回答していた（表4）。協力できると回答した学校で、高等学校では「ICT教育の取り組みをしている」の割合が高かったが、それ以外の学校要因については差を認めなかった（表5）。

健康リスク行動に対する健康教育

健康リスク行動の内容別、前年度の健康教育の実施割合は、中学校では薬物97.1%、ネット・ゲーム89.6%、性感染症89.1%、タバコ86.2%、お酒82.7%、高等学校では薬物92.3%、ネット・ゲーム81.1%、性感染症80.5%、タバコ61.0%、お酒61.0%であった（表5）。健康教育の実施率は、すべての健康リスク行動において、高等学校よりも、中学校の実施率が高かった。

D．考察

中学校や高等学校の中高生全国調査への協力意向、学校が調査に参加しやすい要件、調査項目数が少ない調査の学校協力率向上効果、協力意向がある学校の特徴、を明らかにするために、全国から無作為抽出した中学校と高等学校を対象に、短縮調査群と、詳細調査群の2群にランダムに割り付け、学校調査を実施した。その結果、短縮調査群と詳細調査群で生徒調査へ協力する意向に差は認めなかったが、自由記載では、「ウェブ等インターネットを利用した回答」「短時間で回答できること」といった意見があがった。本年度学校調査の結果を受けて、健康日本21（第三次）のベースライン値を提供するための令和6年度中高生全国調査は短縮版で実施する方針とする。一方、短縮版の調査では、中高生の喫煙及び飲酒行動開始と関係する要因や、受動喫煙の状況等を把握することができず、施策に反映することができないため、詳細版での中高生全国調査も望まれる。

今回の学校調査によると、ほとんどの学校が生徒調査の回答をウェブで行うことができると回答し、生徒調査に協力する条件としてもウェブでの回答が多数挙げられた。新型コロナウイルス感染症流行下でGIGAスクール構想が進められ、学校現場、特に義務教育段階で、情報通信技術（以下、ICT）の活用が広がったことによると考えられる[1]。2021年度中高生全国調査からウェブ回答方式を導入しているが、今後は、ウェブ回答方式を主とした生徒調査実施に移行する必要がある。

生徒調査へ協力意向がある学校とない学校の背景要因を比較したところ、生徒数の規模を除いては、ほとんど差を認めなかった。高等学校では、協力意向がある学校で「ICT教育の取り組みをしている」との回答割合が高かったが、自由記載での協力に対する意見も参考にすると、生徒調査へ協力意向を示してくれた高等学校は、比較的喫煙や飲酒に対する健康教育への取り組み

に関心が高い記載もあり、取り組みを実践しやすい環境が整っている可能性がある。一方、協力できない理由として、「多忙のため」や「調査物が多い」ことに加え、「質問の内容が不適切」といった、喫煙及び飲酒行動を尋ねる調査への反対意見は根強いと考えられる。

健康教育の実施割合は、中学校でお酒82.7%、タバコ86.2%、高等学校でお酒61.0%、タバコ61.0%であった。その他の健康リスク行動についても健康教育の実施率は、中学校に比べ、高等学校で低い。高等学校から20歳に至るまでの10代後半の時期は、喫煙や飲酒行動に誘われやすく、20歳以降の喫煙や飲酒行動につながる時期でもあり、高等学校においても学校での健康教育は重要である[3]。学校が取り組みやすい健康教育を提案し、10代での喫煙及び飲酒予防教育が学校現場で実践されることが求められる。

E．結論

令和5年度は、中学校や高等学校の中高生全国調査への協力意向、学校が調査に参加しやすい要件、調査項目数が少ない調査の学校協力率向上効果、協力意向がある学校の特徴、を明らかにするために、全国から無作為抽出した中学校と高等学校を対象に学校調査を行った。本年度学校調査の結果を元に、健康日本21（第三次）の評価指標を提供するため、令和6年度は調査項目を絞った短縮版での中高生全国調査をウェブ回答方式中心に実施することとする。一方、中高生の喫煙及び飲酒行動開始と関係する要因や、受動喫煙の状況等を把握し、施策へ反映するために、詳細版での中高生全国調査が必要である。そこで、令和7年度に、中高生全国調査詳細版を実施する方針とする。

参考文献

[1] 尾崎米厚. 令和2年度 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 喫煙、飲酒等の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究. 総括・分担研究報告書, 2021.

[2]文部科学省初等中等教育局修学支援・教材課. 義務教育段階における1人1台端末の整備状況（令和4年度末時点）. 2023年7月. https://www.mext.go.jp/content/20230711-mxt_shuukyo01-000009827_01.pdf

[3]林謙治編著. 青少年の健康リスク 喫煙、飲酒および睡眠障害の全国調査から. 自由企画・出版. 2008.

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

1) Yoshida K, Kanda H, Hisamatsu T, Kuwabara Y, Kinjo A, Yoshimoto H, Ito T, Kasuga H, Minobe R, Maesato H, Jike M, Matsumoto Y, Otsuka Y, Itani O,

Kaneita Y, Higuchi S, Osaki Y. Association and dose-response relationship between exposure to alcohol advertising media and current drinking: a nationwide cross-sectional study of Japanese adolescents. Environ Health Prev Med. 2023;28:58. doi: 10.1265/ehpm.23-00127.

2) Otsuka Y, Kinjo A, Kaneita Y, Itani O, Kuwabara Y, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Kanda H, Yoshimoto H, Jike M, Kasuga H, Ito T, Osaki Y. Comparison of the responses of cross-sectional web- and paper-based surveys on lifestyle behaviors of Japanese adolescents. Prev Med Rep. 2023;36:102462.

3) Kuwabara Y, Kinjo A, Kim H, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Kanda H, Kasuga H, Ito T, Osaki Y. Secondhand Smoke Exposure and Smoking Prevalence Among Adolescents. JAMA Netw Open. 2023;6(10):e2338166. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2023.38166.

２．学会発表

なし

Ｈ．知的財産権の出願・登録状況

１．特許取得

該当なし

２．実用新案登録

該当なし

３．その他

特記すべきことなし

表1. 2023年学校調査回答率

		配布数	調査回答あり		調査回答なし		学校種別内での母比率の差の検定	
							Z value	p value
中学校	短縮調査群	1000	220	22%	780	78%	0.5355	0.5923
	詳細調査群	1000	230	23%	770	77%		
高校	短縮調査群	500	87	17%	413	83%	2.5757	0.01
	詳細調査群	500	120	24%	380	76%		

表2. 今後の生徒調査へ協力意向がある割合

		配布数	調査を実施できる		それ以外		学校種別内での母比率の差の検定	
							Z value	p value
中学校	短縮調査群	1000	76	8%	924	92%	1.3278	0.1842
	詳細調査群	1000	61	6%	939	94%		
高校	短縮調査群	500	32	6%	468	94%	0.7436	0.4571
	詳細調査群	500	38	8%	462	92%		

表3. 生徒調査へ協力意向がある学校において、ウェブで回答できる環境の有無

		ウェブで回答できる		紙と鉛筆での回答が良い		調査を実施できない		合計	
中学校	短縮調査群	74	97%	2	3%	0		76	100%
	詳細調査群	60	98%	1	2%	0		61	100%
高校	短縮調査群	30	94%	1	3%	1	3%	32	100%
	詳細調査群	38	100%	0		0		38	100%
	合計	202	98%	4	2%	1	1%	207	100%

補足）「調査を実施できない」と回答した学校について、自由記述を確認したところ、「Q01は1で、webでの回答ならば可能」「Q03各個人のスマートフォンから回答させせることは可能」との回答であった。

表4．協力可校と協力不可校の背景要因の比較（1）

	中学校			高等学校		
（無回答、非該当を除外）	協力意向 あり	協力意向 なし	p value	協力意向 あり	協力意向 なし	p value
学校規模（生徒数から）	383.1	438.4	0.017	671.5	758.8	0.036
中退率				1.2%	1.1%	0.180
留年率				0.2%	0.1%	0.393
現役大学進学率				54.7%	58.3%	0.366
大学進学率				56.9%	63.0%	0.225
男性教員喫煙率	23.3%	17.8%	0.288	14.2%	12.8%	0.242
女性教員喫煙率	1.1%	1.1%	0.522	1.5%	0.9%	0.211
教員喫煙率	21.7%	13.4%	0.511	10.0%	9.3%	0.310

p valueは、独立サンプルによる Mann-Whitney の U の検定により、協力意向ありと協力意向なしの差を検定

表5．協力可校と協力不可校の背景要因の比較（2）

	中学校全体				高校全体				
（無回答、非該当を除外）	協力意向 あり	協力意向 なし	p value[a]	合計	協力意向 あり	協力意向 なし	p value[a]	合計	p value[b]
ウェブ回答できる	97.8%	98.7%	0.676	98.4%	98.6%	95.2%	0.377	96.8%	0.247
生徒の喫煙率　高いと思う	3.1%	2.4%	0.933	2.6%	6.4%	7.9%	0.726	7.0%	0.002
生徒の喫煙率　低いと思う	89.8%	89.9%		89.4%	72.3%	76.3%		75.8%	
生徒の飲酒率　高いと思う	2.1%	3.1%	0.876	2.6%	6.5%	8.0%	0.399	7.1%	0.001
生徒の飲酒率　低いと思う	88.7%	88.3%		87.9%	67.4%	76.0%		73.0%	
喫煙に対する処分の規則　ある（停学、退学）	3.0%	2.3%	0.791	2.5%	58.8%	51.3%	0.618	54.8%	<0.001
喫煙に対する処分の規則　ある（その他）	15.8%	14.0%		15.0%	33.8%	39.8%		37.1%	
昨年度（2022年度）に喫煙により処分された生徒　いる	3.0%	1.5%	0.450	1.9%	27.3%	25.5%	0.790	25.4%	<0.001
校長の喫煙　あり	15.4%	10.0%	0.123	12.4%	10.9%	7.8%	0.486	8.7%	0.207
健康教育_お酒　行った	81.5%	83.1%	0.704	82.7%	66.2%	58.3%	0.306	61.0%	<0.001
健康教育_タバコ　行った	83.2%	87.6%	0.234	86.2%	67.2%	57.7%	0.220	61.0%	<0.001
健康教育_薬物　行った	97.0%	97.1%	1.000	97.1%	97.1%	89.9%	0.083	92.3%	0.008
健康教育_性感染症　行った	89.4%	88.9%	0.889	89.1%	83.6%	78.6%	0.426	80.5%	0.006
健康教育_ネット・ゲーム　行った	87.0%	90.6%	0.276	89.6%	83.1%	82.1%	0.867	81.1%	0.005
健康教育_その他　行った	36.5%	34.7%	0.781	35.4%	33.3%	41.6%	0.349	37.1%	0.743
タバコ会社による健康教育　行った	1.5%	2.5%	0.724	2.1%		0.9%	1.000	0.5%	0.185
お酒会社による健康教育　行った		0.7%	1.000	0.5%	1.5%	1.7%	1.000	1.6%	0.177
パッチテスト　行った	0.7%	0.7%	0.923	0.7%	2.9%	0.8%	0.430	1.4%	0.366
通信・ゲーム・ネット会社による健康教育　行った	40.7%	41.1%	0.946	41.1%	39.1%	32.8%	0.380	34.2%	0.104
特定屋外喫煙所　あり	6.0%	5.8%	0.944	6.3%	13.4%	13.3%	0.976	13.0%	0.006
ICT教育取り組みしている	99.3%	97.8%	0.435	98.3%	100.0%	94.0%	0.048	96.3%	0.123

p valueは χ 2検定もしくはFisher直接法による.

a.協力意向ありと協力意向なしの差を検定、b．中学校合計と高等学校合計の差を検定.

図1. 生徒調査に「協力できない」と回答した学校の意見（自由記載より）

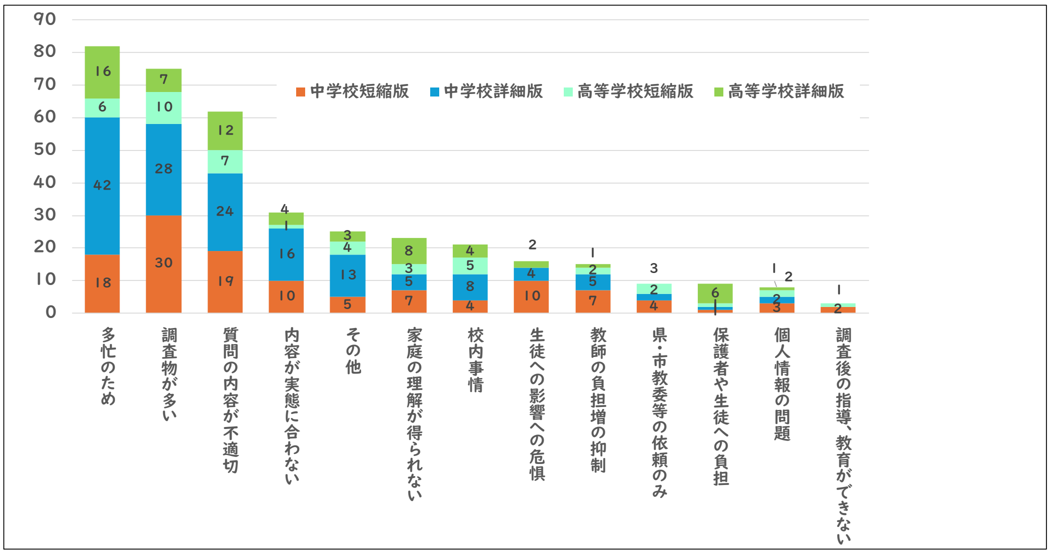


図2. 生徒調査に「協力できる」と回答した学校の意見（自由記載より）

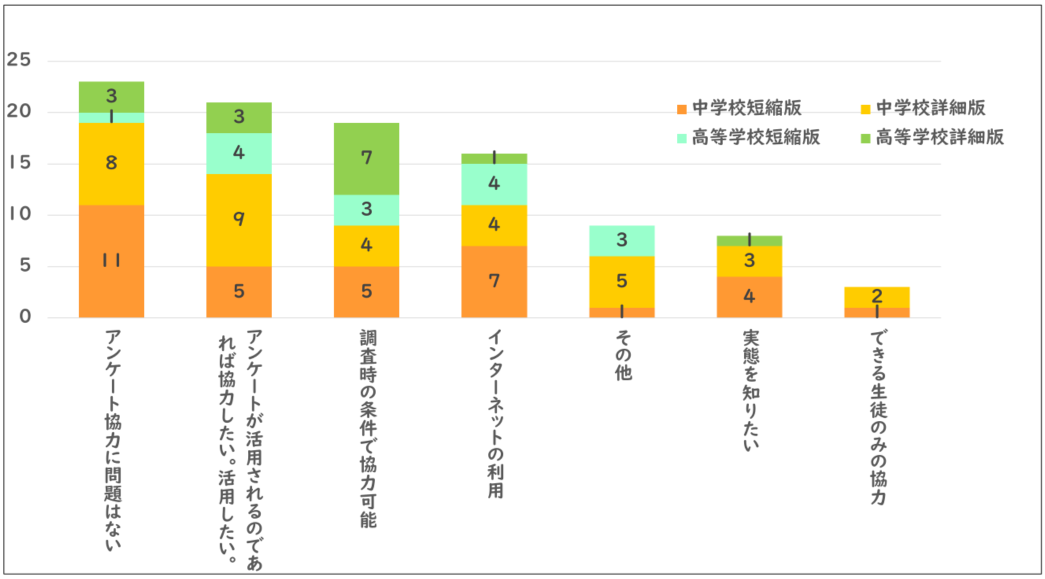
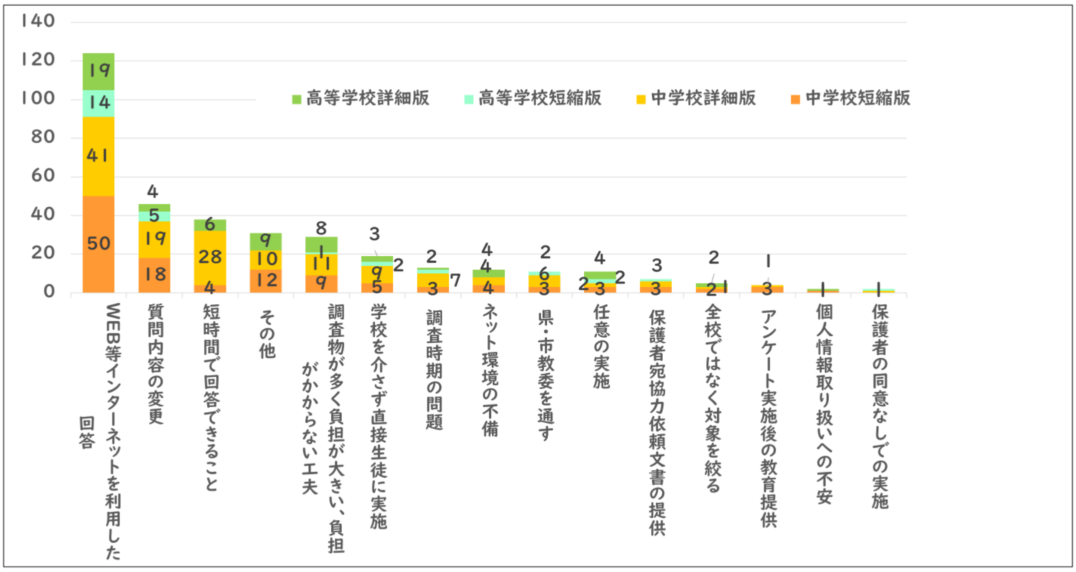


図3. 学校が生徒調査を実施できる条件（自由記載より）



中高生の生活習慣に関する全国調査（202X 年版）サンプル

中学、高校生の生活習慣は、健康と関係があるため厚生労働省がすすめている健康づくり計画である健康日本21(第二次)にも取り上げられています。中学、高校生の生活習慣についての全国調査は1996年から今までに10度行われています。このたび2021年以降にどのように変化したかを知るために全国の中学校、高等学校からくじ引きで合計数百校を選んで全校生徒に対するアンケート調査を実施することになりました。この調査は20歳未満の者の飲酒やタバコ使用の様子を明らかにするなど、国が健康についての対策を考えるために大変重要な資料になります。この調査は、回答した人に不利益がおよぶようなものでなく、みなさんの健康を守るために使われる大切なものですのでぜひ協力してください。

このアンケートは、個人の秘密を守るために、書いた人が誰かわかるような「名前」等の項目はありません。回答はほとんどが当てはまる項目を選ぶだけです。学校の先生や保護者にもどんな回答をしたかわかりません。回答したデータは集計する大学に送られ、その結果は集計表をつくるためだけに使用し、研究以外の目的には利用しません。**回答はありのままを正直に答えてください。**

なお、このアンケートの質問文にあるお酒とは日本酒のことではなくビール、酎(ちゅう)ハイ、日本酒、焼酎(しょうちゅう)、ワイン、ジン、ウイスキー、ブランディー、ウォッカといったアルコール類をまとめた表現だと思ってください。

厚生労働省　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究グループ
研究代表者　金城　文（鳥取大学医学部　環境予防医学分野　准教授）

※保護者もしくは本人の同意が得られない場合は、アンケートに回答せず終了してください。

回答はすべて統計的に処理し、プライバシーは保護されます。
また、個人の回答が学校を含めた第三者に知らされることはありません。

ここから先のアンケートは、生徒であるご本人がお答えください。

（質問１）あなたの戸籍の性別は男性ですか、女性ですか？あてはまる数字に○をつけてください。

１．男性　　２．女性

（質問２）あなたの学年は何年生ですか？あてはまる数字に○をつけてください。

１．１年生　　２．２年生　　３．３年生

（質問３）あなたの年齢に○をつけてください。

１．12才　　３．14才　　５．16才　　７．18才
２．13才　　４．15才　　６．17才　　８．19才以上

（質問４）あなたはお酒をどのくらいの頻度で飲みますか？あてはまる数字に１つ○をつけてください。
（このアンケートの質問文にあるお酒とは日本酒のことではなくビール、日本酒、焼酎(しょうちゅう)、ワイン、ジン、ウイスキー、ブランディー、ウォッカといったアルコール類をまとめた表現だと思ってください。以下も同じです）

１．飲まない　　３．月に１、２回　　５．週に数回
２．年に１、２回　　４．週末ごとに　　６．毎日

（質問５）この30日間に、少しでもお酒を飲んだ日は合計何日になりますか？

１．０日　　３．３～５日　　５．10～19日　　７．毎日（30日）
２．１か２日　　４．６～９日　　６．20～29日

019

ここからはタバコについての質問です。
※これらの質問では、「紙巻タバコ」、「加熱式タバコ」、「電子タバコ」「新型タバコ（加熱式タバコもしくは電子タバコ）」、「タバコ（これらすべてを含む）」を区別して尋ねます。
回答の際に注意してください。

（質問６）あなたは、今までに紙巻きタバコ（紙を巻いたぼうの形をしたもので、火をつけて吸う普通のタバコ）を一口でも吸ったことがありますか？

１．ない　　２．ある

（質問７）この30日間に、何日、紙巻きタバコを吸いましたか？

１．０日
２．１か２日
３．３～５日
４．６～９日
５．10～19日
６．20～29日
７．毎日（30日）

（質問８）あなたは、今までに加熱式タバコを一口でも吸ったことがありますか？（加熱式タバコとは、アイコス(iQOS)、グロー(glo)、プルーム（Ploom)、リル ハイブリッドなどの商品です）

１．ない　　２．ある

（質問９）この30日間に、何日、加熱式タバコを吸いましたか？

１．０日
２．１か２日
３．３～５日
４．６～９日
５．10～19日
６．20～29日
７．毎日（30日）

（質問10）あなたは、今までに電子タバコを一口でも吸ったことがありますか？電子タバコとは、ドクターベイプ（DR.VAPE）、フレヴォ（FLEVO）、スムースビップ（SMOOTH VIP）、ビタフル（VITAFUL）、イーゴ（eGO AIO）、ゼロスティック（ZERO STICK）、ベポレッソ（VAPORESSO）などの商品です）

１．ない　　２．ある

（質問11）この30日間に、何日、電子タバコを吸いましたか？

１．０日
２．１か２日
３．３～５日
４．６～９日
５．10～19日
６．20～29日
７．毎日（30日）

回答を送信してください。

ご協力ありがとうございました。

020

中高生の生活習慣に関する全国調査（202X 年版）サンプル

中学、高校生の生活習慣は、健康と関係があるため厚生労働省がすすめている健康づくり計画である健康日本21(第二次)にも取り上げられています。中学、高校生の生活習慣についての全国調査は1996年から今までに10度行われています。このたび2021年以降にどのように変化したかを知るために全国の中学校、高等学校からくじ引きで合計数百校を選んで全校生徒に対するアンケート調査を実施することになりました。この調査は20歳未満の者の飲酒やタバコ使用の様子を明らかにするなど、国が健康についての対策を考えるために大変重要な資料になります。この調査は、回答した人に不利益がおよぶようなものでなく、みなさんの健康を守るために使われる大切なものですのでぜひ協力してください。

このアンケートは、個人の秘密を守るために、書いた人が誰かわかるような「名前」等の項目はありません。回答はほとんどが当てはまる項目を選ぶだけです。学校の先生や保護者にもどんな回答をしたかわかりません。回答したデータは集計する大学に送られ、その結果は集計表をつくるためだけに使用し、研究以外の目的には利用しません。**回答はありのままを正直に答えてください。**

なお、このアンケートの質問文にあるお酒とは日本酒のことではなくビール、酎(ちゅう)ハイ、日本酒、焼酎(しょうちゅう)、ワイン、ジン、ウイスキー、ブランディー、ウォッカといったアルコール類をまとめた表現だと思ってください。

厚生労働省　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究グループ
研究代表者　金城　文（鳥取大学医学部　環境予防医学分野　准教授）

※保護者もしくは本人の同意が得られない場合は、アンケートに回答せず終了してください。

回答はすべて統計的に処理し、プライバシーは保護されます。
また、個人の回答が学校を含めた第三者に知らされることはありません。

ここから先のアンケートは、生徒であるご本人がお答えください。

（質問１）あなたの戸籍の性別は男性ですか、女性ですか？あてはまる数字に〇をつけてください。

１．男性　　２．女性

（質問２）あなたの学年は何年生ですか？あてはまる数字に〇をつけてください。

１．１年生　　２．２年生　　３．３年生

（質問３）あなたの年齢に〇をつけてください。

１．12才　　３．14才　　５．16才　　７．18才
２．13才　　４．15才　　６．17才　　８．19才以上

（質問４）あなたはお酒をどのくらいの頻度で飲みますか？あてはまる数字に１つ〇をつけてください。
（このアンケートの質問文にあるお酒とは日本酒のことではなくビール、日本酒、焼酎(しょうちゅう)、ワイン、ジン、ウイスキー、ブランディー、ウォッカといったアルコール類をまとめた表現だと思ってください。以下も同じです）

１．飲まない　　３．月に１、２回　　５．週に数回 ⑬
２．年に１、２回　　４．週末ごとに　　６．毎日

（質問５）この30日間に、少しでもお酒を飲んだ日は合計何日になりますか？

１．０日　　３．３～５日　　５．10～19日　　７．毎日（30日）
２．１か２日　　４．６～９日　　６．20～29日

（質問６）あなたは以下のような時にお酒を飲んだことがありますか？あてはまるものをいくつでも〇をつけてください。

１．飲んだことがない
２．冠婚葬祭（結婚式、お祭り、葬式(そうしき)、法事、お盆、正月など）の時に飲んだことがある
３．家族が食事の時にお酒を飲む時にいっしょに飲んだことがある
４．クラス会、打ち上げ、コンパの時に飲んだことがある
５．居酒屋、カラオケボックス、飲み屋などで仲間といっしょに飲んだことがある
６．誰かの部屋で仲間といっしょに飲んだことがある
７．ひとりで飲んだことがある

021

（質問７）お酒を飲む時にはどのくらいの量を飲みますか？

１．飲まない
２．コップ１杯未満（ほんの少しの量）
３．コップに１杯
４．コップに２杯
５．コップに３～５杯
６．コップに６杯以上
７．酔いつぶれるまで

（質問８）あなたはお酒を飲む時に、たくさん飲むことがどのくらいの頻度でありますか？
（「たくさん」とはビール・甘いお酒サワーだと通常のカン(350ml)で「5本以上」のことです）

１．飲まない
２．年に１回以下
３．年に数回
４．月に１、２回
５．週に１、２回
６．週に３回以上

（質問９）自分からすすんでまたはお酒とわかって初めてお酒を飲んだのは何才ころですか？

１．一度も飲んだことがない
２．８才かそれより若く
３．９か10才
４．11か12才
５．13か14才
６．15か16才
７．17才よりうえ

（質問10）初めて友だちや仲間とお酒を飲んだのは何才ころですか？

１．一度も飲んだことがない
２．８才かそれより若く
３．９か10才
４．11か12才
５．13か14才
６．15か16才
７．17才よりうえ

（質問11）よく飲むお酒はどんな種類ですか？あてはまるものをいくつでも〇をつけてください。

１．飲まない
２．ビール
３．日本酒
４．ワイン
５．焼酎（しょうちゅう）、サワー類（酎（ちゅう）ハイやハイボールなど）
６．アルコール度が低く甘いお酒（果実酒など）
７．ウイスキー、ブランディー、ウォッカなどの強いお酒

（質問12）<u>この30日間に</u>、アルコールの入っていないビール、カクテル、酎ハイ飲料（ノンアルコール、アルコールフリー、アルコール０（ゼロ））を飲んだ日は合計何日になりますか？

１．０日
２．１か２日
３．３～５日
４．６～９日
５．10～19日
６．20～29日
７．毎日（30日）

（質問13）<u>この30日間に</u>、エナジードリンク（モンスター、モンスターエナジー、レッドブル、コカ・コーラエナジー、ゾーン(ZONe) など）を飲んだ日は合計何日になりますか？

１．０日
２．１か２日
３．３～５日
４．６～９日
５．10～19日
６．20～29日
７．毎日（30日）

（質問14）お酒をエナジードリンクと混ぜて飲むことがどのくらいの頻度でありますか？

１．飲まない
２．年に１回以下
３．年に数回
４．月に１、２回
５．週に１、２回
６．週に３回以上

（質問15）お酒を主にどうやって手に入れていますか？ あてはまるものをいくつでも〇をつけてください。

１．一度も飲んだことがない
２．家にあるお酒を飲む
３．友だちや知人からもらう
４．酒屋で買う
５．自動販売機で買う
６．居酒屋、カラオケボックス、飲み屋などで飲む
７．コンビニエンスストア、スーパーマーケットで買う
８．その他の方法で

（質問16）あなたは、<u>この30日間に</u>年齢のためにお酒を売ってもらえなかったことがありましたか？

１．この間、買おうとしなかった　２．時々売ってもらえなかった　３．いつでも売ってもらえた

（質問17）あなたは、お父さんかお母さんにお酒を飲むのをすすめられたことがありますか？

１．はい　２．いいえ　３．おぼえていない

（質問18）あなたは、親がお酒を飲むのを嫌だと思ったことがありますか？

１．ある　２．ない　３．親はお酒を飲まない

（質問19）あなたは、20歳未満での飲酒禁止をどう思いますか？自分の気持ちに近いもの１つに〇をつけてください。

１．当然だと思う
２．しかたないことだと思う
３．20歳以上が飲めて、20歳未満が飲めないのはおかしいと思う
４．法律で決める必要はなく、個人の好きにさせればよいと思う

（質問20）お酒を飲むと身体に害があると思いますか？１つを選んで〇をつけてください。

１．かえって健康によいと思う
２．体に良くも悪くもないと思う
３．多少はあるだろうが、たいしたことはないと思う
４．害があると思う
５．わからない

022

（質問21）お酒を飲んで失敗したことがありますか？いくつでも選んで〇をつけてください。

１．お酒を飲んだことがない
２．酔って（よって）はいた
３．酔ってケンカをした
４．酔って記憶がなくなった
５．事故やケンカなどで警察につかまった
６．親にしかられた
７．けがをした
８．一度も失敗したことがない

（質問22）お酒を飲むことには次のどのような病気やできごとと関係があると思いますか。あてはまるものにいくつにでも〇をつけてください。

１．　肺がんになる
２．　急性アルコール中毒になる
３．　肝ぞうが悪くなる
４．　交通事故が増える
５．　生まれてくる赤ちゃんの障害
６．　インフルエンザになる
７．　アルコール依存症になる
８．　脳がちぢむ

（質問23）あなたは、お酒を飲んだ人からイヤだと思うことをされたことがありますか？いくつでも選んで〇をつけてください。

１．イヤだと思うことはされたことがない
２．イヤなことを言われた・からまれた
３．お酒を飲まされそうになった・飲まされた
４．体をさわられそうになった・さわられた
５．暴力を受けそうになった・受けた
６．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

（質問24）また、どこで、お酒を飲んだ人からイヤだと思うことをされましたか？

１．イヤだと思うことはされたことがない
２．自分の家
３．自分以外の人の家
４．食事に行った飲食店
５．アルバイト先
６．その他

（質問25）この30日間で、あなたはお酒の広告(コマーシャル、ＣＭ)をどこで見かけましたか？あてはまるものをいくつでも〇をつけてください。

１．ウェブサイトや動画サイト
２．テレビ
３．コンビニエンスストアやスーパーなどの店に貼ってあるポスター
４．駅や電車・バスの中
５．まったく見なかった、見たがどこかわからない

ここからはタバコについての質問です。
※これらの質問では、「紙巻タバコ」、「加熱式タバコ」、「電子タバコ」「新型タバコ（加熱式タバコもしくは電子タバコ）」、「タバコ（これらすべてを含む）」を区別して尋ねます。
回答の際に注意してください。

（質問26）あなたは、今までに紙巻きタバコ（紙を巻いたぼうの形をしたもので、火をつけて吸う普通のタバコ）を一口でも吸ったことがありますか？

１．な　い　　２．あ　る

（質問27）あなたが紙巻きタバコを初めて吸ったのは何才ころですか？１つだけ選んで数字に〇をつけてください。

１．吸ったことがない
２．７才以下
３．８才
４．９才
５．10才
６．11才
７．12才
８．13才
９．14才
10．15才
11．16才
12．17才
13．18才以上

（質問28）あなたが新型タバコ（加熱式タバコもしくは電子タバコ）を初めて吸ったのは何才ころですか？１つだけ選んで数字に〇をつけてください。

１．吸ったことがない
２．７才以下
３．８才
４．９才
５．10才
６．11才
７．12才
８．13才
９．14才
10．15才
11．16才
12．17才
13．18才以上

（質問29）この30日間に、何日、紙巻きタバコを吸いましたか？

１．０日
２．１か２日
３．３～５日
４．６～９日
５．10～19日
６．20～29日
７．毎日（30日）

023

（質問30） **この30日間に、１日平均どのくらいの本数の紙巻きタバコを吸いましたか？**

１．この間、吸っていない　**４**．２～５本　**７**．16～20本
２．１日１本に満たない　**５**．６～10本　**８**．21本以上
３．１本　**６**．11～15本

（質問31） **この30日間に、自分の吸う紙巻きタバコをおもにどのようにして手に入れましたか？あてはまるものにいくつでも〇をつけてください。**

１．この間、吸っていない
２．コンビニエンスストア、スーパーマーケット、ガソリンスタンド等の店で買った
３．自動販売機で買った
４．タバコ屋で買った
５．誰かからもらった
６．家にあるタバコを吸った
７．インターネットで買った
８．その他の方法で

（質問32） **あなたは、今までに加熱式タバコを一口でも吸ったことがありますか？**（加熱式タバコとは、アイコス(iQOS)、グロー(glo)、プルーム（Ploom)、リル ハイブリッドなどの商品です）

１．な　い　**２**．あ　る

（質問33） **この30日間に、何日、加熱式タバコを吸いましたか？**

１．０日　**３**．３～５日　**５**．10～19日　**７**．毎日（30日）
２．１か２日　**４**．６～９日　**６**．20～29日

（質問34） **あなたは、今までに電子タバコを一口でも吸ったことがありますか？**（（電子タバコとは、ドクターベイプ（DR.VAPE）、フレヴォ（FLEVO）、スムースビップ（SMOOTH VIP）、ビタフル（VITAFUL）、イーゴ（eGO AIO）、ゼロスティック（ZERO STICK）、ベポレッソ（VAPORESSO）などの商品です）

１．な　い　**２**．あ　る

（質問35） **この30日間に、何日、電子タバコを吸いましたか？**

１．０日　**３**．３～５日　**５**．10～19日　**７**．毎日（30日）
２．１か２日　**４**．６～９日　**６**．20～29日

（質問36） **この30日間に、自分の吸う加熱式タバコや電子タバコをおもにどのようにして手に入れましたか？あてはまるものにいくつでも〇をつけてください。**

１．この間、吸っていない
２．コンビニエンスストア、スーパーマーケット、ガソリンスタンド等の店で買った
３．自動販売機で買った
４．タバコ屋または新型タバコ販売店で買った
５．誰かからもらった
６．家にあるタバコを吸った
７．インターネットで買った
８．その他の方法で

（質問37） **あなたが現在吸っているタバコの銘柄の名前（商品名）を略さず１つだけ書いてください。吸っていない人は書かないでください（加熱式タバコや電子タバコを含めあらゆるタバコのうち最もよく吸った商品の名前です）。**

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

（質問 38） **紙巻タバコは買いにくくなったと思いますか？その理由を、いくつでも〇をつけてください。**

１．タバコを吸った（買った）ことがない　**６**．タバコの値段が高くなった
２．買いにくくなったとは思わない　**７**．タバコを吸える場所が減った
３．年齢確認が厳しくなった　**８**．周りの目が気になるようになった
４．自販機が使えなくなった（タスポが必要）　**９**．その他（　　　　　　）
５．家にタバコがなくなった

（質問39） **あなたは紙巻タバコをやめたいと思いますか？１つだけ選んで数字に〇をつけてください。**

１．タバコを吸っていない　**４**．本数を減らしたい
２．実際、やめようと取り組んだことがある　**５**．やめたくない
３．やめたいと思う　**６**．わからない

024

（質問40）あなたは<u>この30日間に</u>年齢のために紙巻タバコまたは加熱式タバコを売ってもらえなかったことがありましたか？

1．この間、買おうとしなかった　　3．いつでも売ってもらえた（年齢はごまかした）
2．時々売ってもらえなかった　　4．いつでも売ってもらえた（年齢はごまかしていない）

（質問41）あなたは<u>この30日間に</u>年齢のために電子タバコを売ってもらえなかったことがありましたか？

1．この間、買おうとしなかった　　3．いつでも売ってもらえた（年齢はごまかした）
2．時々売ってもらえなかった　　4．いつでも売ってもらえた（年齢はごまかしていない）

（質問42）あなたは、親が紙巻タバコを吸うのを嫌だと思ったことがありますか？

1．ある　　2．ない　　3．親はタバコを吸わない

（質問43）あなたの親や兄弟、友だちは禁煙に取り組んでいますか？あてはまるものにいくつでも〇をつけてください。

1．周りにタバコを吸う人・禁煙している人はいない　　4．友だちが禁煙している
2．親が禁煙している（電子タバコを使わずに）　　5．親が電子タバコを使っている
3．兄弟が禁煙している

（質問44）朝起きて、すぐにタバコを吸うか、タバコを吸いたいと思ったことはありますか？

1．タバコを吸ったことがない　　4．ときどき朝吸ったり、吸いたいと思う
2．今はタバコを吸っていない　　5．いつも朝吸ったり、吸いたいと思う
3．朝吸いたいと思ったことはない

（質問45）タバコを吸うと身体に害があると思いますか？１つを選んで〇をつけてください。

1．害があるとは思わない　　3．害があると思う
2．多少はあるだろうが、たいしたことはないと思う　　4．わからない

（質問46）他人の紙巻タバコからの煙はあなたにとって有害であると思いますか？

1．そう思わない　2．おそらくそう思わない　3．おそらくそう思う　4．そう思う

（質問47）他人の加熱式タバコからの煙はあなたにとって有害であると思いますか？

1．そう思わない　2．おそらくそう思わない　3．おそらくそう思う　4．そう思う
□

（質問48）<u>この7日間のうちで</u>、家で、あなたのいるところで、誰かが紙巻タバコを吸ったのは何日間になりますか？

1．０日　　3．３から４日　　5．７日
2．１から２日　　4．５から６日

（質問49）<u>この７日間のうちで</u>、家以外の場所で、あなたのいるところで、誰かが紙巻タバコを吸ったのは何日間になりますか？

1．０日　　3．３から４日　　5．７日
2．１から２日　　4．５から６日

（質問 50）<u>この 30 日間で</u>、あなたは<u>加熱式タバコの広告や宣伝</u>をどこで見ましたか？あてはまるものをいくつでも〇をつけてください。（ここでいうタバコ広告とは、製品の宣伝広告だけであり、、喫煙マナーやタバコ会社のイメージの広告やキャッチコピー（たとえばＪＴなら「ひとのときを想う」、「ひろえば街が好きになる運動」、「ひとつずつですが、未来へ」等）が入ったものは含みません。）

1．ウェブサイトや動画サイト
2．コンビニエンスストアやスーパーなどの店に貼ってあるポスター
3．駅や電車・バスの中
4．まったく見なかった、見たがどこかわからない

あなたの、生活についてお聞きします。

（質問51）あなたは、朝食を毎日食べますか？

月～金：1．ほとんど毎日食べている　　2．時々食べる　　3．ほとんど食べない
土・日・祝日：1．ほとんど毎日食べている　　2．時々食べる　　3．ほとんど食べない

（質問52）あなたは、家の食事で1 週間に野菜をどのくらい食べていますか？

1．必ず毎日　　2．週4～5日　　3．週2～3日　　4．ほとんど食べない

（質問53）あなたは、インスタントラーメンやカップめんをどのくらい食べていますか？

1．週3回より多い　2．週1～2回　3．月1～3日回　4．月1回より少ない

（質問54）あなたはクラブ活動に参加していますか？

1．積極的に参加している　2．積極的でないが参加している　3．参加していない

（質問 55）この 30 日間に、体育の授業以外で、30 分以上体を動かす運動やスポーツをした日が何日ありましたか？

1．０日　3．３～５日　5．10～19 日　7．毎日（30 日）
2．１か２日　4．６～９日　6．20～29 日

（質問 56）この 30 日間に、体育の授業以外で、１日平均どのくらいの時間、体を動かす運動やスポーツを行いましたか？

1．まったくしなかった　3．１～２時間未満　5．３～５時間未満
2．１時間未満　4．２～３時間未満　6．５時間以上

（質問57）この30日間に、1日平均どのくらいの時間、学校の授業をオンラインで受けましたか？

1．まったくしなかった　3．１～２時間未満　5．３～５時間未満
2．１時間未満　4．２～３時間未満　6．５時間以上

（質問 58）この 30 日間に、１日平均どのくらいの時間、学校以外の授業をオンラインで受けましたか？

1．まったくしなかった　3．１～２時間未満　5．３～５時間未満
2．１時間未満　4．２～３時間未満　6．５時間以上

（質問59）学校は楽しいですか？

1．楽しい　2．どちらとも言えない　3．楽しくない

（質問 60）この 30 日間では１日平均どのくらいの時間、家で親や保護者の方と一緒に過ごしましたか？

1．ほとんど過ごさなかった
2．10分未満
3．10分から29分
4．30分から1時間
5．1時間以上
6．その他

（質問61）将来の進路をどのように考えていますか？今の気持ちに近いもの１つに〇をつけてください。

1．高等学校　3．短大　5．大学院　7．わからない
2．専門学校　4．大学　6．今の学校卒業後の就職

（質問62）この30日間に、あなたの睡眠の質を全体としてどのように評価しますか？

1．非常によい　2．かなりよい　3．かなりわるい　4．非常にわるい

（質問63）この30日間に、１日平均して何時間くらい眠りましたか？

1．５時間未満　3．６～７時間未満　5．８～９時間未満
2．５～６時間未満　4．７～８時間未満　6．９時間以上

（質問64）この30日間に、夜、寝床につく平均時間は何時くらいでしたか？

1．午後10時より前　3．午後11～12時より前　5．午前１～２時より前
2．午後10～11時より前　4．午前０～１時より前　6．午前２時以降

（質問65）この30日間に、夜、眠りにつきにくい（なかなか眠れない）ことはありましたか？

1．まったくなかった　3．時々あった　5．常にあった
2．めったになかった　4．しばしばあった

（質問66）この30日間に、夜、いったん眠ってから目がさめましたか（夜中に目がさめましたか）？

1．まったくなかった　3．時々あった　5．常にあった
2．めったになかった　4．しばしばあった

（質問67）この30日間に、朝早く（明け方）目がさめてしまい、もう一度眠ることが難しいことがありましたか？

1．まったくなかった　3．時々あった　5．常にあった
2．めったになかった　4．しばしばあった

（質問68） **この30日間に、いつもより自分のしていることに生きがいを感じることがありましたか？**

１．あった
２．いつもと変わらなかった
３．なかった
４．まったくなかった

（質問69） **この30日間に、いつもより気が重くて落ちこむことは、ありましたか？**

１．まったくなかった
２．あまりなかった
３．あった
４．たびたびあった

（質問 70）　現在、一緒に住んでいる方々をすべてあげてください。寮生の人は 9 に加えて実家にいる家族をすべて選んで下さい。（〇はいくつでも）

１．父親（単身赴任含む）
２．母親（単身赴任含む）
３．兄弟姉妹
４．　祖父母
５．　配偶者
６．　１−５以外の親せき
７．　わからない
８．　その他（具体的に　　　　　）
９．　ひとりぐらし（寮生など）

回答を送信してください。

ご協力ありがとうございました。

027

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yoshida K, Kanda H, Hisamatsu T, Kuwabara Y, Kinjo A, Yoshimoto H, Ito T, Kasuga H, Minobe R, Maesato H, Jike M, Matsumoto Y, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Higuchi S, Osaki Y.	Association and dose-response relationship between exposure to alcohol advertising media and current drinking: a nationwide cross-sectional study of Japanese adolescents.	Environmental Health and Preventive Medicine	28	58	2023年
Otsuka Y, Kinjo A, Kaneita Y, Itani O, Kuwabara Y, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Kanda H, Yoshimoto H, Jike M, Kasuga H, Ito T, Osaki Y.	Comparison of the responses of cross-sectional web- and paper-based surveys on lifestyle behaviors of Japanese adolescents.	Preventive Medicine Reports	36	102462	2023年
Kuwabara Y, Kinjo A, Kim H, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Kanda H, Kasuga H, Ito T, Osaki Y.	Secondhand Smoke Exposure and Smoking Prevalence Among Adolescents.	JAMA Network Open.	6(10)	e2338166	2023年

令和６年　３月　２６日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立大学法人鳥取大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　中島　廣光

次の職員の令和５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20 歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）医学部・准教授

（氏名・フリガナ）金城　文・キンジョウ　アヤ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和６年　３月　２６日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立大学法人鳥取大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　中島　廣光

次の職員の令和５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）医学部・教授

（氏名・フリガナ）尾﨑　米厚・オサキ　ヨネアツ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　6年　3月31日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~　殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　日本大学医学部

所属研究機関長　職　名　医学部長

氏　名　木下　浩作

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

3．研究者名　（所属部署・職名）　医学部・教授

（氏名・フリガナ）　兼板　佳孝・カネイタ　ヨシタカ

4．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

6．利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和６年　1月２９日

厚生労働大臣　殿

機関名　国立大学法人岡山大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　那須 保友

次の職員の令和５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

3．研究者名　（所属部署・職名）学術研究院医歯薬学域・教授

（氏名・フリガナ）神田 秀幸・カンダ　ヒデユキ

4．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	岡山大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　　未受講 □

6．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2024年　4月　30日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　独立行政法人国立病院機構
久里浜医療センター

所属研究機関長　職　名　院　長

氏　名　松下 幸生

次の職員の（令和）５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター名誉院長・顧問

（氏名・フリガナ）樋口 進（ヒグチ ススム）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6年　3月　31日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名　学校法人国際医療福祉大学

所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　高木　邦格

次の職員の（令和）５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2．研究課題名　20 歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

3．研究者名　（所属部署・職名）　医学部・教授

（氏名・フリガナ）　井谷　修・イタニ　オサム

4．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

6．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2024年　4月　30日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　昭和女子大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　金尾　朗

次の職員の（令和）５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　食健康科学部・講師

（氏名・フリガナ）　地家真紀・ヂケマキ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　6年　3月31日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　日本大学医学部

所属研究機関長　職　名　医学部長

氏　名　木下　浩作

次の職員の（令和）５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　医学部・准教授

（氏名・フリガナ）　大塚　雄一郎・オオツカ　ユウイチロウ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 6年　4月　10日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名　国立大学法人筑波大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　永 田 恭 介

次の職員の（令和）５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　医学医療系・准教授

（氏名・フリガナ）　吉本 尚・ヨシモト ヒサシ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学、筑波大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2024年4月30日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長)~~ 殿
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 独立行政法人国立病院機構琉球病院

所属研究機関長 職 名 院長

氏 名 福治康秀

次の職員の（令和）５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名 20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名 （所属部署・職名） 副院長

（氏名・フリガナ） 真栄里仁 （マエサト ヒトシ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称： ）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □（無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■ 無 □（無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □（無の場合はその理由： ）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■（有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和６年　５月　７日

厚生労働大臣　　殿

機関名　独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター

所属研究機関長　職　名　院長

氏　名　松　下　幸　生

次の職員の令和５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

3．研究者名　（所属部署・職名）久里浜医療センター・精神科医師

（氏名・フリガナ）美濃部るり子・ミノベルリコ

4．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　　未受講 □

6．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □(無の場合はその理由：　　)
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □(無の場合は委託先機関：　　)
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □(無の場合はその理由：　　)
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　)

（留意事項）・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和６年　３月　２６日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立大学法人鳥取大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　中島　廣光

次の職員の令和５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20 歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）医学部・助教

（氏名・フリガナ）桑原　祐樹・クワバラ　ユウキ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和６年５月９日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　公立大学法人福島県立医科大学

所属研究機関長　職　名　　理事長

氏　名　竹之下　誠一

次の職員の令和５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）医学部・助教

（氏名・フリガナ）春日 秀朗・カスガ　ヒデアキ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　　　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　6年　4月　3日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　郡山女子大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　関口　修

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

3．研究者名　（所属部署・職名）　家政学部食物栄養学科・准教授

（氏名・フリガナ）　伊藤　央奈・イトウ　テルナ

4．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講　■　未受講　□

6．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和６年　３月　２６日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立大学法人鳥取大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　中島　廣光

次の職員の令和５年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　20歳未満の喫煙、飲酒等の実態把握及び環境要因の解明のための研究

３．研究者名　（所属部署・職名）医学部・助教

（氏名・フリガナ）今本　彩・イマモト　アヤ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	鳥取大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。